

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：12611

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18631

研究課題名（和文）形成的介入理論を活用したメンター（初任教师指導者）の指導力向上プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of the program to improve leadership of mentors by using formative intervention theory.

研究代表者

後藤 郁子（goto, Ikuko）

お茶の水女子大学・基幹研究院・基幹研究院研究員

研究者番号：60724482

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：成果として、附属小・中学校での教育実習及び都内の公立小学校（A校）の初任者研修の場においてメンター役の教師が実践者の能動的な発達を促す形成的介入を試行し、その試行過程におけるメンターの指導法の要素を検証し概念化した。また、形成的介入の試行に関わっていない都内2区の公立小学校（83校）のメンターにアンケート調査を実施しメンターの指導実態から課題を捉え、本研究が課題解決に寄与できる研究結果であることを検証した。

研究結果は、お茶の水女子大学から『初任教师の成長・発達を支援するメンターの介入論-能動的な課題解決から生まれる教師エージェンシー』として電子出版し、研究者や教育現場にアピールしていく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

初任者研修の要である指導担当者＝メンターの介入法や指導力を高める方法についての検討・開発は全く為されていない現状において、初任教师の能動的な行為（成長・発達）を生み出すべく、形成的介入論（エンゲストローム：2010）を基にした、メンター育成の理念となる介入法について提案するとともに、新しい教師教育の在り方にも一石を投じるという意味で学術的意義を有する。

更には、初任教师一人一人が固有の課題解決能力を身に付けることで真の教育力が養われることになり、即ちそれは、真に教育力のある教師育成というキャリアデザインの発想に立つてのメンターの指導力向上に関する研究といえ、社会的意義をもつものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, mentors attempted formative intervention to encourage novice teacher's proactive self-development on the teaching practice at an elementary and junior high school affiliated with a national university, and also on the novice teacher training at an elementary school in Tokyo (School A). The elements of mentor's teaching method verified in the process of this attempting were conceptualized. Furthermore, this study showed that the findings in this study have a potential to solve the problem, grasping the actual conditions of mentoring based on questionnaires conducted to mentors in 83 elementary schools in 2 wards of Tokyo, which are not engaged in formative intervention.

In order to appeal to researchers and educational sites, the research findings are going to be published as an e-book, 「Theory for Mentor Intervention Supporting Growth and Development of Novice Teachers -Teacher Agency Steaming from Active Solutions-」 by Ochanomizu University.

研究分野：社会科学

キーワード：初任教师 メンター 形成的介入 能動的発達

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 学校現場での初任者育成については通常、学校にメンターを配置し指導力の向上を図っている（生田：2009）（東京都：2008）。しかし、現状においては、メンターを使ったOJTシステムについての検討・開発は行われてはいるが、メンターの初任者への関わり方や効果的な指導の在り方についての検討は全く為されておらず、メンターの指導法（介入の在り方）に関する研修なども行われていない。

(2) 現状のOJTシステムについては、任せきってしまうことによる弊害の指摘（中原・金井：2009）や、メンター制度は、かえって初任者の能動的発達を阻んでいるという指摘もある（Ehrlich：2004）。Wang 他（2008）は、多くの育成プログラムが、新人教師の所属する学校文化への適応をサポートすることにフォーカスしていると指摘し、その上で単に順応するだけでは、自動的に有能な教師へと成長しないと唱えている。

### 2. 研究の目的

(1) 初任者研修におけるメンターの介入について調査し、その課題を明確にすると共に、エンゲストローム（2010）の形成的介入理論を参考に課題解決の方向性を追究する。フィールドは、研究協力者である国立大学附属小学校 Y 教師と同中学校 S 教師が教育実習生の指導を担当する教育実習の場において、形成的介入（エンゲストローム：2010）を参考にしたメンタリングを試行し、メンタリング機能の在り方について追究する。

(2) 初任者研修におけるメンターの介入の在り方について、メンターへのアンケート調査及びインタビューの実施を通して、メンタリングの課題の一端を明らかにする。また、可能な限り初任教師へのインタビューも実施し、検証に活かすと共に、研究結果を「初任教師の能動的発達をもたらすメンタリング機能」として提案する。

### 3. 研究の方法

(1) メンターの試行に協力する附属小・中教師は、毎月の実践研究会を通し、研究の方向性は共有しているが、改めて研究の概要と形成的介入理論のガイダンスを行った上で実施する。形成的介入においては、「課題を捉える場面」・「課題解決の方法を考える場面」、「実施・評価の場面」において実施する。検証の方法は、メンターと実践者間の相互交渉における双方の発話記録と観察記録を基に分析する。

(2) 初任者研修におけるメンターの介入の実際を調査するため、メンターへのアンケート調査及びインタビューを実施する。アンケートは、東京都内 2 区の小学校のメンターに質問紙によるアンケート調査を実施する。更に、呼びかけに応じた回答者及び初任教師に対しインタビューも実施し、メンターの介入の課題について分析する。

### 4. 研究成果

(1) メンターに実施したアンケートの結果、重点的に指導していることやメンターの職務意識を捉えることができた（表 1）。その中で、「指導で大変なことは何か」という質問で最も多く記述されていた内容を分析すると、「口出しや手出しのタイミングに迷う」という概念が抽出され、介入の課題が捉えられた。同様の回答者には、現職のメンター（30代～40代）と退職後に指導に当たっているメンター（60代）及び初任者指導を現職時代も含め 5 年間経験している 60 代のメンターも含まれていることから、これは、メンターの経験に関係ない共通の課題であることが分かった。インタビューからは、「初任者育成」というメンターの役割と、「子どもの教育」という教師の視点から葛藤するメンターの姿も捉えられ、「サポートと評価」または、「メンターと評価者」との葛藤（Hannu L. T. Heikkinen, Jane Wilkinson, Jessica Aspfors, Laurette Bristol：2018）と捉えられた。また、中には「自立した社会人」とは認められない初任者もいて、介入をより困難にしていた実態も伺えた。各メンターは、こうした課題を抱えつつ、メンタリングのあるべき姿を模索しながら葛藤していた。本研究結果は、メンターが初任者への関わり方や効果的な指導の在り方について学び合う場＝メンターの指導法（介入の在り方）に関する研修などが必要であることを示していた。また、学校組織として初任者研修を行うという観点からも、メンターとの連携の在り方を見直す必要があるといえる。

表 1 メンターへのアンケート結果 分析一覧

質問	初任者の指導で大事なこと
概念①	授業に必要な指導力をつける
概念②	教員として必要な基本知識や姿勢を身に付けさせ、自立を促すこと
概念③	初任者との関係を大事にし、初任者の良さを引き出すこと
概念④	児童理解に基づいた子どもとの良い関係づくり

☞質問	初任者の指導で大変なこと
概念⑤	初任者に合う口出し・手出し(指導)の程度やタイミングに迷う
概念⑥	限られた時間の中で、指導や事務処理を一緒にしなければならないこと
概念⑦	社会人としての意識・マナーの指導が、なかなか伝わらないという葛藤がある
☞質問	学校(管理職)に求めたいこと
概念⑧	管理職も積極的に初任者の指導に関わって欲しい
概念⑨	組織で初任者育成・支援を行う環境づくりをして欲しい
概念⑩	不十分さや失敗で初任者だけを追い詰めない・良さを認める姿勢をもって欲しい

(2) 教育実習期間のメンタリングについて、着目個所の《課題設定時(授業の構想)》・《課題解決時(授業組織)》・《振り返り(評価)》の場面におけるメンターの介入の在り方を追究した結果、各プロセスにおける介入の意味が捉えられた。

○課題設定時(授業の構想)

課題設定時(授業構想)におけるメンタSの介入a、b、c(抽出された定義)は、実習生の能動性(自立性)を尊重しながら、解決のヒントやモデルの獲得につながる場となっていたことを明確に示しており、自立的な解決の方向づけがなされたと捉えられた。

- a 信頼関係の構築
- b 初任教師のニーズへの傾聴
- c 対話的な雰囲気の中で肯定的に受け止めながら聴く

これらの定義を凝縮し、《課題設定時(授業の構想)》における介入の在り方について『主体的な課題解決の方向づけを行う機能』と概念化した。

○課題解決時(授業組織)

課題解決のプロセスにおけるメンターの介入は、いずれも相互交渉的に指導方法の不明な点やあいまいな点を明確にしていると捉えられた。これらのことを踏まえ、《課題解決時(授業組織)》における、メンターの介入の在り方は、d 指導方法を確認するために「問う」、e 協働的に学習活動を創る「同意」と「提案」と定義づけられた。

- d 指導方法を確認するために「問う」
- e 協働的な学習活動を創る「同意」と「提案」

これらの定義を凝縮し、《課題解決時(授業組織)》における介入の在り方について『協働的に指導方法の不明な点や曖昧な点を明確にする機能』と概念化した。

○振り返り(評価)

振り返り(評価)の場面では、《課題設定時(授業構想)》で設定された定義a 信頼関係の構築、b 初任教師のニーズへの傾聴、c 対話的な雰囲気の中で肯定的に受け止めながら聴くという介入がベースにあると言えた。振り返りのプロセスにおける介入では、まず、実習生の授業の良さを評価すると共に、実習生自身が捉えた課題を焦点化し一緒に向き合うメンターの姿が捉えられた。また、メンターが、謙虚に真摯に実習生に学んでいる姿も捉えられた。メンターのこうした姿勢は、実習生の笑顔を生むと共に実習生の更なる向上心を喚起させる役割を果たしていた。

- f 指導の良さを価値づける
- g 実習生(⇒初任教師)自身が捉えた課題に、一緒に向き合う
- h 実習生(⇒初任教師)に学ぶメンターの謙虚さと真摯な姿勢

これらの定義を凝縮し、《振り返り時(評価)》においては『対話的・相互交渉的に学び合う場をデザインする機能』と概念化した。

また、メンタリングの成果については、実習生の能動的発達=行為能力(agency)が捉えられたかどうかを視点を当てて検証し、成果を確認している。

本研究では、これらの結果を【初任教師の能動的発達をもたらすメンタリング機能モデル】(図1)として示していく。また、

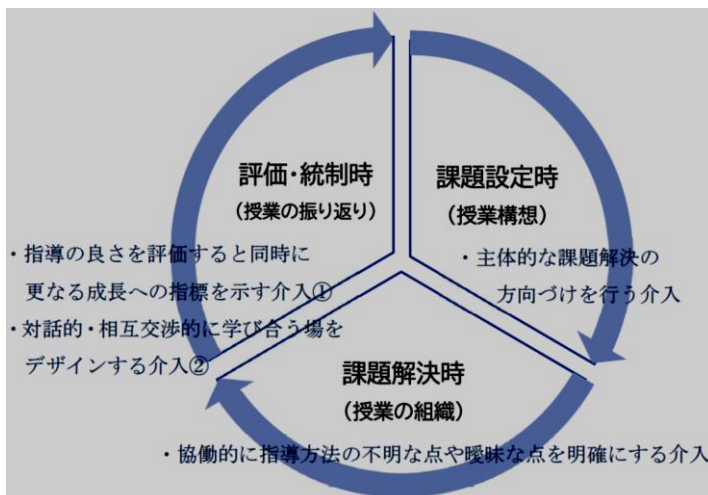


図1 【初任教師の能動的発達をもたらすメンタリング機能モデル】

<引用文献>

- Ehrich, L. C., B. Hansford, and L. Tennent (2004) Formal Mentoring Programs in Education and Other Professions: A Review of the Literature. *Educational Administration Quarterly* 40, 518-540.
- Engeström, Y., Sannino, A, (2010) Studies of expansive learning: Foundations, findings and Future challenges. *Educational Research Review* 5, 1-24.
- Hannu L. T.H., Jane W., Jessica A., Laurette B. (2018) *Teaching and Teacher Education*. 71, 1-11.
- 生田孝至 (2009) 「メンタリングの機能を組み込んだ e-learning 教員研修システムの開発」『科学研究費補助金研究成果報告書』.
- Jian W., Sandra J. Odell., Sharon A. Schwille. (2008) EFFECTS OF TEACHER INDUCTION ON BEGINNING TEACHERS' TEACHING: A CRITICAL REVIEW OF THE LITERATURE.
- 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課編集 (2008) 『平成 20 年度初任者研修・新規採用者研修・期限付任用教員任用時研修実施の手引き』.
- 中原淳・金井壽宏 (2009) 『リフレクティブ・マネジャー——一流はつねに内省する』 光文社.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ikuko Goto, Chika Inoue, Akihiro Osaki, Kana Suematsu	4. 巻 8
2. 論文標題 Development of a Place for Science Communication as an Initiative to Support the Construction of a Novice ECEC Practitioner's View of Children	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Impact, Volume 2020, Number 8	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21820/23987073.2020.8.20	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤郁子・玉野麻衣	4. 巻 成果報告書
2. 論文標題 初任教師の成長・発達支援のデザイン - エンゲストロームの拡張的学習理論からのアプローチ -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30年度文部科学省委託研究 「新任・若手教員の学校組織マネジメント育成のための学校コンサルテーション」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤郁子・玉野麻衣	4. 巻 21(通巻29号)
2. 論文標題 初任教師の成長・発達支援のデザイン - エンゲストロームの拡張的学習理論からのアプローチ -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育経営学研究紀要	6. 最初と最後の頁 63-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 1件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 後藤郁子、井上知香、末松加奈
2. 発表標題 インフォーマルな場における若手保育者の学び
3. 学会等名 日本教育学会 第80回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 小学校の初任者研修におけるメンタリングの課題 メンターへのアンケート調査及びインタビューを通して
3. 学会等名 日本教師教育学会 第29回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤郁子 滝澤公子
2. 発表標題 小学校教育で求められる男女共同参画意識の醸成 - 令和1年・2年・3年の実践を基に -
3. 学会等名 日本教師学学会 第23回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 初任者研修におけるメンタリング 課題と解決モデル
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤郁子 井上知香 大崎章宏 末松加奈
2. 発表標題 Tasks in Mentoring for Novice Teacher Training: The direction of problem solution
3. 学会等名 EUROPEAN EDUCATIONAL RESEARCH ASSOCIATION (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤郁子 末松加奈 井上知香 大崎章宏
2. 発表標題 幼児の物語創作における保育者の介入行動に関する一考察ある男児のデジタル絵本創作活動に焦点をあてて
3. 学会等名 日本発達心理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 インフォーマルな場における若手保育者の学び
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 初任・若手教師育成現場の実態と課題から捉えた指導担当者（メンター）の介入論
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 “Design of Expansive Learning in Novice Teacher Training -Focusing on the Self-directed Acts of the Training Participants “
3. 学会等名 EUROPEAN EDUCATIONAL RESEARCH ASSOCIATION (ECER) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 初任・若手教師をサポートするメンタリング機能-附属中と公立小の事例を通して -
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤郁子 井上知香 大崎章宏 末松加奈
2. 発表標題 “Developing a setting for scientific communication as a third-place learning community- how novice preschool teacher develop learning in the community compared to their working place ”
3. 学会等名 Hawaii International Conference On Education ( 国際学会 )
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 初任者研修におけるメンタリングの課題と解決の方向性
3. 学会等名 日本教師学学会 ( 要旨発表 )
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 “Tasks in Mentoring for Novice Teacher Training:The direction of problem solution ”
3. 学会等名 EUROPEAN EDUCATIONAL RESEARCH ASSOCIATION ( 採択 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 初任者研修におけるメンタリング 課題と解決モデル
3. 学会等名 日本教育学会（ウェブ開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 教員研修における共有・協同のデザイン
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 “ Does Mentoring Make Novice Teachers Self-Directed? : Functions of Mentoring as Support for Novice Teachers in Elementary School ”
3. 学会等名 EUROPEAN EDUCATIONAL RESEARCH ASSOCIATION (ECER) 2018,Bolzano（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 エンゲストロームの拡張的学習理論をもとにした初任教师の成長・発達を支える新しい育成論からのアプローチ
3. 学会等名 九州教育学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 初任者研修における拡張的学習のデザイン - 校長の形成的介入に視点をあてて -
3. 学会等名 日本教師学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 初任・若手教師育成現場の実態と課題から捉えた思想担当者(メンター)の介入論(予定)
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤郁子
2. 発表標題 " Design of Expansive Learning in Novice Teacher Training -Focusing on the Self-directed Acts of the Training Participants- " (予定)
3. 学会等名 EUROPEAN EDUCATIONAL RESEARCH ASSOCIATION (ECER) 2019,Hamburg (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------